私が愛する中国映画
我爱中国电影

著　水野衛子
監訳　王衆一
イラスト　山本孝子

外文出版

私が愛する中国映画
我爱中国电影

（日本語—中国語対訳）

翻訳　王衆一　郝慧琴　銭海澎
林崇珍　常俊池　賈秋雅

外文出版社

2008年初版発行

ISBN 978-7-119-05468-1
©2008 中国 北京 外文出版社
外文出版社出版
中国北京百万荘大街24号
〒100037
http://www.flp.com.cn
中国国際図書貿易総公司発行
中国北京車公荘西路35号
〒100044
北京 P.O.Box399
中華人民共和国にて印刷

图书在版编目（CIP）数据

我爱中国电影：日汉对照／（日）水野卫子著；山本孝子绘．
—北京：外文出版社，2008 年
ISBN 978-7-119-05468-1

I.我… II.①水…②山… III.电影影片—简介—中国—日、汉
IV.J905.2

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2008）第 110764 号

企划·主编：王众一
责任编辑：郭雅坤　田　洁　马彦荣
封面设计：蔡　荣
内文设计：蔡　荣
印刷监制：冯　浩

我爱中国电影

水野卫子

©2008 外文出版社

出版发行：外文出版社（中国北京百万庄大街 24 号）
邮政编码：100037
网　　址：http://www.flp.com.cn
电　　话：008610-68320579（总编室）
008610-68995852（发行部）
008610-68327750（版权部）
制　　版：北京维诺传媒文化有限公司
印　　刷：北京蓝空印刷厂
开　　本：170mm × 240mm　1/16　　**印　　张**：14.5
2008 年第 1 版第 1 次印刷
（日）
ISBN 978-7-119-05468-1
04800（平）
7-JC-3871P

版权所有　侵权必究　有印装问题可随时调换

目　次

序文 / 序　1
前書きに代えて：私と中国映画 / 作者序：我与中国电影　5
草ぶきの学校 / 草房子　17
独り、待っている / 独自等待　22
2046/2046　27
愛にかける橋 / 芬妮的微笑　33
カンフーハッスル / 功夫　39
北京ヴァイオリン / 和你在一起　45
花嫁大旋風 / 花腰新娘　50
上海家族 / 假装没感觉　56
わが家の犬は世界一 / 卡拉是条狗　61
ココシリ / 可可西里　66
孔雀 / 孔雀　71
アバウト・ラブ / 恋爱地图　78
緑茶 / 绿茶　83
ジャスミンの花開く / 茉莉花开　89
ドジョウも魚である / 泥鳅也是鱼　96
故郷の香り / 暖　103

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

単騎、千里を走る / 千里走单骑　108
私に栄誉を！ / 求求你，表扬我　114
ウィンターソング / 如果・爱　120
LOVERS/ 十面埋伏　127
十三の桐 / 十三棵泡桐　132
若き仕立屋の恋 / 手　139
ヘブン・アンド・アース / 天地英雄　145
ウォ・アイ・ニー / 我爱你　150
私たち / 我们俩　156
無窮動 / 无穷动　162
西洋鏡 映画の夜明け / 西洋镜　168
胡同のひまわり / 向日葵　173
春の惑い / 小城之春　179
ミッシング・ガン / 寻枪　184
見知らぬ女からの手紙 / 一个陌生女人的来信　189
おばさんのポストモダン生活 / 姨妈的后现代生活　195
HERO/ 英雄　201
雲の南へ / 云的南方　206
たまゆらの女 / 周渔的火车　211
パープル・バタフライ / 紫蝴蝶　216
編集・翻訳後記 / 编译后记　221

序　文

水野はよく知っている。だが、いつ知り合ったのか、覚えてない。けれども、彼女の姿と声は深く脳裏に刻み込まれ、まるで同級生のようだ。それは彼女の流暢な中国語のせいに違いない。

思い起こせば、水野を本当に知ることになったのは、『ヘブン・アンド・アース』の撮影の時だ。彼女は当時、中井貴一の通訳だった。私と中井の会話は、ほとんど水野が通訳したので、中井の意思は水野の声を通じて記憶されることとなり、中井を思い出す時は、まず水野の声を思い出すほどだった。もちろん、彼女自身の意思もまた彼女の声で表現される。だが、彼と彼女のまったく異なる２つの意思が、同じ１つの声でありながら、どれが中井のもので、どれが水野のものか、決してこんがらがることがないのが、水野のすごいところである。

当時、殺人ゲームという遊びが流行っていて、はるか遠い沙漠の地の撮影クルーも、その遊びにはまっていた。各国各民族の人々が参加して、水野と中井も例外ではなかった。夜の帳が下りる頃、水野の声は正確無比、かつ生き生きと中井の“情を揺さぶり、理に訴える”弁明の言葉を通訳して、その場にいた各国各民族を惑わす一方、冷静かつ緻密に中井を分析し、人々が、雲の破れをつきぬけ、蔓をたどるようにして、ついに、中井の美しい外套を剥ぎ取り、“殺人犯”の姿をあぶりだし、正当な裁きを受けさせるよう誘導した。それが水野である。

まさにいわゆる、団結、緊張、厳粛、活発。１つの声に、２つの準備。
水野は姓、彼女の名は衛子という。
水野衛子である。

姜文

注）殺人ゲーム　中国で流行っていた遊び。進行役が内緒で殺人犯を１人決め、何も知らない他の人たちが、誰が犯人かを当てるゲーム。全員が自分は犯人でないと弁明しなければならず、その言葉や表情の中に、いかにウソを見抜くかという知的推理ゲームで、演技の訓練にもなるというので、中国の俳優たちの間でよく遊ばれる。

注）団結、緊張、厳粛、活発　延安時代の毛沢東が抗日軍政大学の学生のために定めた校訓。

序

水野，我认识。但什么时候认识的，记不得了。可是她的样子和声音却深深地印在我的头脑里，就像个老同学。莫非是因为她能说一口流利的中国话？

回想起来，和水野的真正相处，是在拍摄《天地英雄》的时候。她当时是中井贵一的翻译。工作中我与中井的交谈，大多由水野翻译。也就是说，中井的意思是通过水野的声音被我记住的，以至于想起中井，首先听到的是水野的声音。当然水野自己的意思也是通过水野的声音表达。但他与她是很不同的两种意思，虽然都是一个声音，但你还是弄不乱哪个是中井，哪个是水野。这就是水野的本事。

那时流行玩杀人游戏，远在戈壁荒漠的摄制组也被传染上了。各国各民族的群众无不踊跃参加，水野和中井也不例外。夜幕降临之时，水野的声音一方面准确无误、有声有色地翻译着中井那些“动之以情，晓之以理”的辩护词，迷惑着在场的各国各族群众。一方面却又沉着冷静、思维缜密地分析着中井。引导群众穿云破雾、顺藤摸瓜，直至将中井的华美外衣层层脱掉，显出“杀手”本身，并将其绳之以法。这就是水野，真所谓：团结紧张，严肃活泼。一个声音，两种准备。

水野是姓，她的名字叫卫子。

全称：水野卫子。

姜文

前書きに代えて：私と中国映画

1977年に大学に入学し、教養課程での必修外国語に中国語を選んだ私は無味乾燥な教科書の中国語ではなく、生きた中国語に触れてみたいと現代中国映画上映会に出かけ、生まれて初めて見た中国映画『創業』にショックを受けた。大慶油田の労働者の苦労を描くというストーリーのあまりのつまらなさにである。中学生の頃から映画が好きで、アメリカのニューシネマや日本のATG映画を見まくっていた私には当時の中国映画はあまりに泥臭く、イデオロギー丸出しに思えて、とてもついていけなかった。それでも高校時代に漢詩が好きだったので、その後、専門課程の中国文学専攻に進むと、『林商店』や『祝福』、『青春の歌』といった北京映画製作所の古い文芸映画を見ることで中国の文学の香りを楽しんだが、大学を卒業して高校の漢文の教師になると、忙しさにかまけて平日の夜に上映される中国映画からは次第に足が遠のいていた。

そんなある日、勤務先の高校の演劇部のコーチをお願いしていた新劇の俳優さんが「すごい中国映画を見ましたよ。」と興奮して言う。1985年か86年だったと思う。遠ざかっていた中国映画に一体どんな傑作が現れたのかという好奇心と、たまたま、その年の夏休みに高校時代の友人たちと初めて中国に旅行して、それまであまり興味が持てないでいた現代の中国にも興味を持ち始めていたので、軽い気持ちでその映画を見に行ったところ、それまで見たどこの国のどんな映画よりも強烈にノックアウトされてしまった。それが『黄色い大地』

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

だった。画面の3分の2に広がる荒涼とした草木も生えないような大地と、地面にはいつくばるようにして生きている人々の姿を描いた映像の斬新さ、八路軍の兵士がたった1人の少女も救えないという物語の衝撃。何もかもが目新しく、今までの中国映画に対する私の認識を180度換えてしまう圧倒的な力があった。

それからは、どこかで新しい中国映画が上映されると聞けば、東京近辺ならどこにでも足を運ぶ日々が続いた。その中で、『黄色い大地』の次に強烈な印象を受けたのが、1988年に岩波ホールで上映された『芙蓉鎮』である。物語自体は文革を舞台にしたメロドラマなのだが、右派青年の秦書田を演じた姜文のひょうひょうとした人物造型が新鮮だった。労働改造のための道路掃除を楽しげにワルツを踊るようにこなしていく、逆境を嘆くのではなく、どんなささいなことにも喜びを見出ししぶとく生き抜いていく人間の強さと尊さに心から感動した。半年の上映期間中、12回もこの作品を見たのは、高校の教育課程から漢文の授業が減り、専門外の現代文や古文の授業を受け持たざるを得なくなり、高校の教師という職に疑問を感じ始めていた当時の自分自身の境遇と重ね合わ

せて感じるものがあったのかもしれない。この2本の中国映画で知った陳凱歌、張芸謀、姜文という中国の映画人のことをさらに深く知るために、内山書店を通して『中国銀幕』と『大衆電影』という雑誌を定期購読し始めると同時に、字幕を読むのではなく中国語で映画を完璧に理解したいと、通訳学校にも通い始めた。別に通訳になりたかったわけではないが、中級以上の中国語を教える学校が他になかったのである。その頃には映画館で年に数本上映されるだけでは物足りなくなり、池袋の在日中国人相手のレンタルビデオ屋に通いつめ、『中国銀幕』や『大衆電影』に紹介された作品を次々に借りては見て、中国映画と中国をますます身近に感じるようになり、字幕も何もない映画を観ることで聴力も飛躍的に進歩させることができた。

1993年には東京都教育委員会が中国国家外国専家局の要請で東京都の高校の国語科教員を中国の大学に派遣する制度に応募して、山東大学で1年間日本語を教えることになった。初めての中国長期滞在である。行くまでは知らなかったが、山東大学はコン・リーのお父さんが教鞭を執っていた大学で、私が住んでいた専家楼の隣りにはコン・リーの両親が住む職員宿舎もあった。ちょうどテレビで放映中だった『ニューヨークの北京人』を毎晩一緒に見て、中国語の台詞の大意を解説してあげて親しくなった同僚のアメリカ人の映画理論の客員教授が、北京に姜文のインタヴューに行くというのにくっついていき、北京の港澳中心で『太陽の少年』の編集を終えたばかりの姜文にも会うことができた。山東大学の正門横にあった映画館では『覇王別姫～さらば、我が愛』や『秋菊の物語』などが次々に公開され、学生を誘って何度も見に行き、見終わった後は私の専家楼の部屋で学生たちと感想を話し合ったりした。

たった1年間でさらに中国映画と中国の虜になった私は帰国後すぐに高校の教員を辞職し、ビジネス通訳になった。映画の仕事があろうとは思えなかったからである。けれども、江ノ島で開催された中国女性映画祭に観客として出かけた際、映画のことが分からず立ち往生した通訳に代わって飛び入りで通訳を

務めて以来、中国映画関連の通訳の仕事もぽつぽつと入るようになった。そんな仕事の１つであった埼玉県で中国映画祭を開催するために埼玉県知事表敬訪問に来日した電影局の役人の通訳をしたのがきっかけで、第１回彩の国さいたま中国映画祭では来日した監督や女優さんたちの通訳のほかに、字幕のイロハから字幕製作会社に教えてもらい、上映作品の字幕を翻訳させてもらえることになった。忘れもしない、最初につけた字幕作品は『香香の油屋騒動(香香鬧油坊)』『危情少女』『オフィスガール(奥菲斯小姐)』の３本である。今、思えば、それぞれになかなか個性的な作品で面白い字幕初体験だったと思う。『危情少女』に至っては、待てど暮らせど台本が送られてこず、聞き取りですべて翻訳することになり、レンタルビデオ屋に通いつめて養った聴力が生きた。

90年代半ば過ぎからは、公開される作品も増え、それまで中国映画の字幕翻訳と通訳を専門とする人材がいなかったこともあり、徐々に映画業界に名前が知られて行き、仕事もどんどん増えていった。何度か中国取材旅行の同行通訳をしたキネマ旬報社からは『覇王別姫~さらば、我が愛』の台本の翻訳本を出させてもらえることになり、巻頭に載せるインタヴューのため、調布の日活撮影所で『花の影』の編集中の陳凱歌に会いに行ったのが縁で、続く監督作品の『始皇帝暗殺』では台本段階からの翻訳を依頼された。クランクイン後は、ロケ

地の浙江省横店に日本の記者を案内してのジャンケット・ツアーにも通訳として参加し、その労を買われてか、初の大作の字幕も任され、宣伝で来日した監督やコン・リーたち出演者の通訳も務めた。その後は中国映画専門の字幕翻訳兼通訳として現在に至っている。字幕の翻訳をすると、ただ観ているだけでは気づかないことにたくさん気づかされ、来日した監督や俳優の通訳をし、彼ら彼女らと直接言葉を交わし、その人となりを知ると、また違った角度からその作品を見つめ直すことができる。翻訳と通訳の2つの形で関わることになった中国映画は、私にとっては単なる仕事や趣味というレベルを超えて、生きがいそのものになっている。

中国映画の日本での受け入れられ方もこの10年で大きく変わった。昔はごく一部の中国好きが見るものだったのが、中国に特別な興味も思い入れもない普通の日本人が鑑賞する対象になった。その変化は、ちょうど、『山の郵便配達』や『初恋のきた道』のあたりからではないだろうか。以前は、たとえロードショー上映でも単館での公開だけだったのが、全国の300館から400館規模で公開される作品も出てきた。ここ2、3年は韓流に続くのは華流だとばかり、台湾や香港の俳優と共に大陸のイケメン俳優が一部で人気になったり、中国のテレビドラマが衛星放送で放映されることも珍しくなくなっている。日本で中国映画がポピュラーなものになるのは嬉しい反面、中国の文化や社会への関心とはまったく関係ない、単なる消費文化としてもてはやされることに対する一抹の寂しさもある。私が一番好きな中国映画はやはり中国の今を生きる人々の姿と中国社会の現実を伝えるものである。かつて姜文が「中国映画は骨董品を売ってるみたいだ」と批判したように、中国では意外と普通の中国人が普通に暮らす物語を映画で見ることが出来ない。だが、最近はそうした作品も見直されてきつつあるようだ。去年で言えば、『私に栄誉を』『クレイジー・ストーン』など、実に見ごたえのある中国の今を活写した作品が出現している。特に『クレイジー・ストーン』は娯楽作品としても優れた出来であり、商業映画全盛の

現在の中国映画界に一石を投じる作品だったと思う。お金のない私には自分で中国映画の配給をしたり、製作をしたりすることは出来ないが、その手助けぐらいは出来る。『幸せの場所』や『草ぶきの学校』はいずれも私が中国で見て感動して、すぐに知り合いの映画関係者に頼んで買ってもらったものだ。今は日本に生きる中国人女性の話を映画化すべく奔走している。これだけ、日本にたくさんの中国人がごく普通に暮らしていながら、そのリアルな姿を反映させた映画作品が1本ぐらいあってもいいだろうと思うからだ。中国映画と私の縁死ぬまで続くに違いない。

さて、この本は中国で唯一日本語で発行されている『人民中国』という雑誌で連載中のコラム「名作のセリフで学ぶ中国語」をまとめたものである。同誌の編集長でこの本の中国語翻訳の監訳者でもある王衆一さんは、1995年に北京電影学院で行われた日中映画監督シンポジウムでそれぞれ日本側中国側の通訳として参加して以来の親しい友人である。王さんの博識と見事な日本語には常に感服させられている。その王さんの監訳で、私の拙い中国映画よもやま話が立派な中国語に翻訳され、日本と中国で上梓されるのは何よりうれしい。また、各作品に私とはまったく違った視点で楽しいイラストを描いてくれたのは、やはり中国映画好きの友人の山本孝子さんで、王志文の大ファンでもある。去年から『人民中国』誌上でもイラストを描いてくれているのだが、今回新たにその前の2年分24作品の絵を描き下ろしてくださり、とても感謝している。この本が、日本の中国語学習者、中国の日本語学習者、そして日中双方の中国映画愛好者のお役に少しでも立つことができれば幸いである。

2007年3月30日　水野衛子

作者序：我与中国电影

1977年上大学，基础课必修外语选学了汉语，但是当时干巴巴的汉语教材引不起我多大兴趣，为了接触鲜活的汉语，我跑去参加现代中国电影放映会，有生以来头一次看到中国电影《创业》，颇受震动。这部讲述大庆油田石油工人忘我劳动的电影在我看来太过乏味。从中学时起我就酷爱电影，美国的先锋电影和日本新浪潮电影差不多都看了个遍。但当时觉得中国电影过于土气，而且充斥着意识形态的说教，实在是让我没有感觉。不过高中的时候，我很喜欢中国古典诗词，后来专业学习中国文学，看了《林家铺子》、《祝福》、《青春之歌》等北京电影制片厂拍摄的老电影，从中感受到中国文学的芬芳。可是大学毕业以后当了高中古汉文老师，每天白天很忙，那些平日晚上上映的中国电影也就越来越少有机会去看了。

可是有一天，一位我所在高中的戏剧部请来做指导的话剧演员激动地对我说，“刚刚看过一部中国电影，真是棒极了”。当时大约是85年或86年。正好这一年暑假偶然地和几个高中同学第一次去中国旅行，以前不太关注的当代中国开始进入我的视野，加之怀着好奇心想看看久违了的中国电影到底会出现什么样的杰作，便信马由缰地来到电影院看了这部电影。一看不要紧，这部电影带来的强烈震撼超过了迄今为止看过的所有国家的任何一部电影。这就是《黄土地》。影片用崭新的电影语言描绘了充斥着整个画面三分之二的寸草不生的大地，以及面朝黄土背朝天，顽强地生存在这片土地上的人们。故事讲的是，一名八路军战士却救不了

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com